

正誤表

『大腸癌治療ガイドライン 医師用 2022 年版』第7版第1刷（2022年1月25日発行）に誤りがございました。下記のとおり訂正し、お詫び申し上げます。

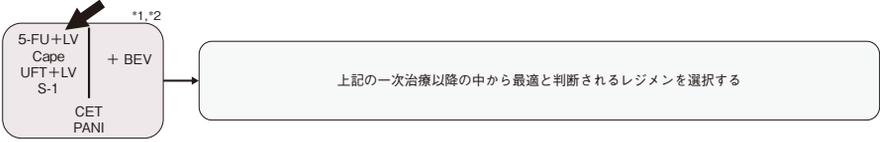
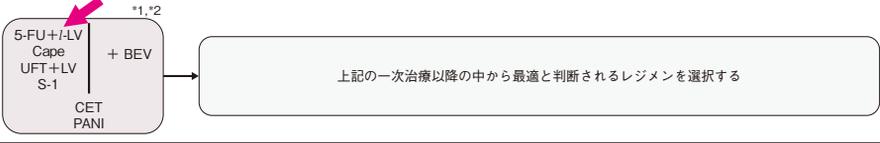
2022年2月3日

金原出版株式会社

記

頁	36
訂正箇所	切除不能進行・再発大腸癌に対する薬物療法のアルゴリズムの図 2 レーン目・〈二次治療〉
誤	<p>誤 (太い黒矢印：FOLFIRI)</p> <p>切除不能進行・再発大腸癌に対する薬物療法のアルゴリズム</p> <p>〈一次治療〉 〈二次治療〉^{*1} 〈三次治療〉 〈四次治療〉 〈五次治療〉^{*4}</p> <p> 1. FOLFOX CAPOX SOX + BEV → FOLFIRI S-1+IRI CAPIRI + BEV (REG) → IRI + CET PANI (REG/FTD/TPI) → REG/FTD/TPI (REG) </p> <p> 2. FOLFIRI S-1+IRI + BEV → FOLFIRI IRI + CET PANI (REG) → REG/FTD/TPI (REG) </p> <p> 3. FOLFIRI S-1+IRI + BEV → FOLFIRI + CET PANI (REG) → REG/FTD/TPI (REG) </p> <p> 4. FOLFIRI S-1+IRI CAPIRI + BEV → FOLFIRI + AFL RAM → IRI + CET PANI (REG) → REG/FTD/TPI (REG) </p> <p> 5. FOLFIRI S-1+IRI CAPIRI + BEV → FOLFIRI + AFL RAM → FTD/TPI → REG </p>
正	<p>正 (赤矢印：FOLFOX)</p> <p>切除不能進行・再発大腸癌に対する薬物療法のアルゴリズム</p> <p>〈一次治療〉 〈二次治療〉^{*1} 〈三次治療〉 〈四次治療〉 〈五次治療〉^{*4}</p> <p> 1. FOLFOX CAPOX SOX + BEV → FOLFIRI S-1+IRI CAPIRI + BEV (REG) → IRI + CET PANI (REG/FTD/TPI) → REG/FTD/TPI (REG) </p> <p> 2. FOLFIRI S-1+IRI + BEV → FOLFIRI IRI + CET PANI (REG) → REG/FTD/TPI (REG) </p> <p> 3. FOLFIRI S-1+IRI + BEV → FOLFOX + CET PANI (REG) → REG/FTD/TPI (REG) </p> <p> 4. FOLFIRI S-1+IRI CAPIRI + BEV → FOLFIRI + AFL RAM → IRI + CET PANI (REG) → REG/FTD/TPI (REG) </p> <p> 5. FOLFIRI S-1+IRI CAPIRI + BEV → FOLFIRI + AFL RAM → FTD/TPI → REG </p>

(裏面へ続く)

頁	36
訂正箇所	切除不能進行・再発大腸癌に対する薬物療法のアルゴリズムの図 6 レーン目・〈一次治療〉
誤	誤 (太い黒矢印: 5-FU+LV) 
正	正 (赤矢印: 5-FU+ L -LV) 

頁	37
訂正箇所	臨床試験において有用性が示されており、かつ保険診療として国内で使用可能なレジメン「一次治療」の9行目
誤	・ Infusional 5-FU+ <u>l-LV</u> ^{178,179)} + BEV ^{180,181)}
正	・ Infusional 5-FU+ l-LV ^{178,179)} + BEV ^{180,181)}

頁	37
訂正箇所	臨床試験において有用性が示されており、かつ保険診療として国内で使用可能なレジメン「二次治療 (a) OX を含むレジメンに不応・不耐となった場合」の8行目
誤	・ CET ^{注1)} /PANI+IRI ^{206,207)}
正	・ CET ^{注1)} /PANI+IRI ^{204,205)}

頁	38
訂正箇所	臨床試験において有用性が示されており、かつ保険診療として国内で使用可能なレジメン「二次治療 (c) OX, IRI の両方を含むレジメンに不応・不耐となった場合」の7行目
誤	・ ENTR ^{注7)} (コメント⑦を参照) ²¹³⁾
正	・ ENTR ^{注7)} (コメント⑦を参照) ²¹¹⁾

頁	76
訂正箇所	下から4～2行目
誤	・ しかしながら、経口フッ化ピリミジン薬+OX <u>も</u> しくはIRI と抗 EGFR 抗体薬との併用療法は、その有用性は確認されていないことに注意が必要である ⁵⁷⁹⁾ 。
正	・ しかしながら、経口フッ化ピリミジン薬+OX <u>もしくは</u> IRI と抗 EGFR 抗体薬との併用療法は、その有用性は確認されていないことに注意が必要である ⁵⁷⁹⁾ 。

頁	xviii
訂正箇所	『大腸癌治療ガイドライン医師用 2022 年版』 主な改訂点〔各論〕 1) 補助化学療法 3 点目
誤	32 ページ コメント② ACTS-CC 02 試験の結果を追記した。
正	削除